

外来診療担当医表

野上病院

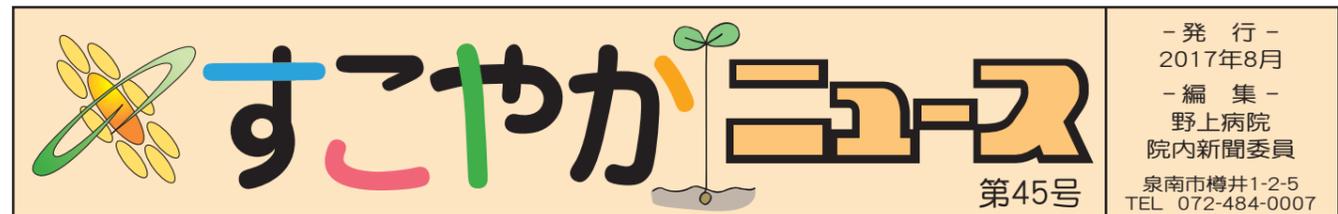
平成29年8月1日より

		月	火	水	木	金	土	日
総合診療科	9:00~12:00	中尾		中尾				
内科	9:00~12:00		上野・山崎 玉置	石橋	玉置	玉置 上野・有安	上野・山崎	
	10:30~12:00		玉置 ※第2・4週					
	14:00~16:00			石橋		有安		
	14:00~17:00	上野	玉置		玉置・武田 大野(基)	生駒		
循環器内科	14:00~17:00	葭川	黒井 ※受付16:30まで	亀山 ※受付16:30まで				
外科 消化器外科 肛門外科	9:00~12:00	藤	小畑	野上(浩)	藤・小畑 桂	野上(浩)	小畑	
	14:00~16:00	手術			手術			
	14:00~17:00		金川(第1・3・5週) 藤(第2・4週)	桂				
	16:00~17:00					野上(浩) (第4週以外)		
眼科	9:00~12:00	戒田・谷口	戒田 谷口(手術)	戒田・谷口	戒田・谷口	戒田 谷口(手術)	京大(第1・3週) 日赤(第2・4・5週)	
	14:00~15:00			日赤(不定期)				
	14:00~17:00	戒田・谷口	谷口 戒田(手術)		谷口	谷口 戒田(手術)		
耳鼻 いんこう科	9:00~12:00				森中 ※受付11:30まで	箕輪(第1・3・5週) 横山(第2・4週)	横山(第1・3週) 箕輪(第2週)	
	14:00~16:30	箕輪						
	16:00~17:00						山根(第4週のみ)	
皮膚科	9:00~12:00	池田(第1・3・5週) 三木田(第2・4週)		原(真)		濱本(第1・3・5週) 原(真)(第2・4週)	松中(第1週)	
泌尿器科	9:00~12:00		梅原	上門 ※受付11:30まで	梅原		上門(第2・4週) ※受付11:30まで	
	10:00~12:00	射場				岩橋		
	14:00~17:00	梅原			梅原	梅原		
脳神経外科	9:30~12:00						出原(第1週) 宗田(第2週) 菱川(第3週) 伊藤(第4週)	
	14:00~17:00			藪内				
リウマチ科	14:00~16:00	西村						
リハビリテーション科	9:00~12:00	上野	藤	朝井	平野	小畑	玉置	
専門外来	プラセンタ外来	玉置						膠原病外来 腎臓(人工透析)外来
	肛門外来	金川						大野(基)・生駒
	リウマチ外来	西村						
	糖尿病外来		石橋・有安					
	甲状腺外来				有安			
	肝臓外来					武田		

※すべての科目で予約制となりました。※診察時間等の変更等もありますので、ご確認下さい。

のがみ泉州リハビリテーションクリニック

		月	火	水	木	金	土	日
整形外科	9:00~12:00	野上倫昭 野上雅史	整形医師 装具 野上倫昭	野上倫昭	整形医師	野上倫昭 野上雅史	田中(第1・3・5週) 濱(第2・4週)	
	16:30~19:00	野上倫昭						
	17:00~19:00			西村		野上雅史		
内科	9:00~12:00					大野(基) (プール検診)		
	16:30~19:00	大野(基)				大野(基)		
リハビリ	9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	
	14:00~15:30	物療	物療	物療	物療	物療		
	17:00~19:00	物療		物療		物療		



総合診療医として
誠実に患者様と
向き合います。



5月より当院にて勤務しております総合診療医の中尾と申します。

大学卒業後、胸部外科(心臓血管外科・呼吸器外科)に入局、研究・専門医の取得に打ち込みました。救命センターでの研修において、患者様を診るといことは、自分の専門以外の臓器・疾患にも常に注意を払うということであることを学ばせて頂きました。「臨床医は病気を見ずして、病人を見よ」、その気持ちは益々強くなっております。

コロンビア大学留学後医局に戻り、その後着任しました病院では多くの外科手術も執刀し、ドクターカーにて救急の現場に赴くこともありました。再度、心臓・血管外科の手術やカテーテルを用いた血管の治療に術者として専念させて頂きました際も、多くの患者様が高齢者でした。糖尿病や高血圧、肝機能障害等の併存疾患も多く、術後如何に合併症を回避できるかが大きな問題でした。術前より併存症をコントロールして手術に臨み、患者様をトータルで管理す

る能力が必要とされました。そのような経験からプライマリケア連合学会の指導医や総合診療医の認定を受け、総合診療医としても活動させて頂いております。

総合診療とは何か?全身を診る科であり、症状や訴えから患者様の診察に入っていきます。今までの経験・知識・技術を生かし、どのような病気や悩みにも誠実に患者様一人一人との対話を大切にしながら、治療に当たらせて頂きたいと考えています。何卒宜しくお願い致します。



副院長 総合診療医
中尾 雅朋



これからの季節

熱中症に注意!



夏真っ盛り。バカンス気分も満開のこの時期、「熱中症」の事故のニュースが毎年挙がってきます。「車内で留守番をしていた子どもが熱中症で重体」「海辺でバーベキューをしていた社員が熱中症で倒れた」…。毎年のことだけに、熱中症については多くの方がよく知っているように感じますが、熱中症について、また、その原因や予防、対処法を知っていますか？

高温環境や運動で体温が上昇すると、体は末梢の皮膚血管を拡張し、血液を流して熱を放散させ、発汗量を増やし、汗の気化熱によって体温を下げようとします。そのため体の水分が不足し、さらに発汗がなければ体温の上昇を抑えることができないため、体は内臓に流れる血液を減らして皮膚に優先的に血液を流し、汗を出そうとします。そして臓器の循環血液量は減少し、臓器の機能障害をきたします。やがて体温調節機能を失い、熱で細胞は破壊され、悪化し最悪な場合、死にいたることもあります。熱中症には、さまざまな症状があり、重症度がことなります。内容は下表を参考にしてください。

熱中症の分類

分類	程度	症 状
Ⅰ度	軽症度	熱けいれん…四肢や腹筋などに痛みをともなったけいれん ○腕、足、腹筋などの筋肉に痛みを伴った痙攣が生じる。頭痛やめまい、吐き気も生じる場合がある。 ○多量の発汗の中、水のみを補給した場合に、起こりやすいとされている。
		熱失神…失神(数秒間程度なもの) ○末梢血管が広がり、相対的に脳・全身への血液量が減少を起こすことによって生じる。失神、脈拍が速く弱い状態になる、呼吸回数の増加、顔面蒼白、頭痛、めまい、吐き気、倦怠感などが見られることがある。意識は清明である。
Ⅱ度	中等度	熱疲労…めまい感、疲労感、虚脱感、頭重感(頭痛)、失神、吐き気、嘔吐などのいくつかの症状が重なり合って起こる ○体温上昇(38℃以上)、脱力感、だるさ、めまい、頭痛、吐き気、血圧の低下、皮膚の蒼白などの症状が生じる。 ○脱水と塩分などの電解質が失われて、末梢の循環が悪くなり、極度の脱力状態となり、放置あるいは誤った判断を行えば重症化し、Ⅲ度へ移行する危険性がある。
Ⅲ度	重症度	熱射病…意識障害、おかしい言動や行動、過呼吸、ショック症状などが、Ⅱ度の症状に重なり合って起こる ○意識障害、おかしい言動や行動、過呼吸、ショック症状などが、Ⅱ度の症状に重なり合って起こる。 ○自己温度調節機能の破綻による中枢神経系を含めた全身の多臓器障害。 ○重篤で、体内の血液が凝固し、脳・肺・肝臓・腎臓などの全身の臓器の障害を生じる多臓器不全となり、死亡に至る危険性が高い。

熱中症の事故は、急に暑くなったときに多く発生しています。梅雨の合間に突然気温が上昇した日や梅雨明けの蒸し暑い日、日頃運動をしていなかった人が急に運動をしたり、環境の変化などに事故が起こりやすいので注意が必要です。

予 防

暑熱環境での体温調節能力には、暑さへのなれ(暑熱順化)が関係しています。急に暑くなったときは運動を軽減し、暑さになれるまでの数日間は、短時間の軽い運動から徐々に増やしていくようにしましょう。体感温度を下げるために、日射を防ぐ、通風を確保することも重要です。

実際の運動の現場では、環境条件や各個人のコンディションに合わせながら、暑さと運動に体をならしていくことが必要です。体調が悪いと体温調節能力も低下し、熱中症につながります。疲労、発熱、かぜ、下痢など、体調の悪いときには無理に運動をしないようにしましょう。

熱中症予防に関しては塩分、糖分は重要です。水だけを摂取すると体内のナトリウム(塩分のことです。)濃度が薄くなり、筋肉のけいれん(熱けいれん)等をおこし、熱中症をさらに助長してしまいます。また、糖分は水分吸収を助ける働きがあり、また運動するうえでエネルギーとしても重要です。そのため、水分補給の際は食塩(0.1~0.2%)と糖分を含んだものが有効です。特に1時間以上の運動をする場合には、4~8%程度の糖分を含んだものが疲労の予防に役立ちます。運動前・中・後にこまめにスポーツドリンクのような塩分、糖分を含んだものを摂取し、熱中症を予防しましょう。

熱中症 Ⅲ度



対 処 法

熱中症かなと感じたら、以下のような対処法を行って下さい。特に熱疲労・熱射病は救急要請が必要です。

Ⅰ度 軽症度 熱けいれん	涼しい所で安静にし、スポーツドリンクなど少量の塩分を含む水分を摂取する。けいれんしている筋肉をゆっくり伸ばして下さい。
Ⅰ度 軽症度 熱失神	涼しい所で衣類を緩めて安静にして下さい。スポーツドリンクなど少量の塩分を含む水分を摂取して下さい。嘔吐などにより水分摂取が困難な場合、医療機関で点滴を受ける必要がある場合もあります。また頭、首などを氷や濡れタオルで冷やして下さい。
Ⅱ度 中等度 Ⅲ度 重症度 熱疲労/熱射病	救急要請し、医療機関に運ぶようにして下さい。その間に、頭、首、腋下、鼠径部などに氷を当て、一刻も早く身体を冷やし、皮膚が乾燥していれば濡れタオル、霧吹きなどで身体を湿らせて下さい。可能であれば水分摂取させて下さい。

※誤嚥する可能性があるため、無理には飲ませないようにしましょう。

熱中症を予防して素敵な夏をお過ごし下さい。(リハビリ 坂上・小田)

(引用文献/厚生労働省熱中症診療ガイドライン2015・日本救急医学会熱中症分類2015)

第4回 のがみ健康フェスタ 開催!

日時 平成29年10月29日(日) 11時~15時30分(予定)

前回は健康相談や催し物、模擬店など各ブースが大盛況! 今回もお楽しみに!!